



## One Minute Videoをつくろう

現在は情報過多の中で人間が生活する時代です。テレビ、パソコン、携帯電話などの情報媒体がちまたに満ち溢れています。こうした中で、子どもたちに主体的な情報活用能力を育成することが求められています。情報に適應するだけでなく、情報や意見の発信者として自分の考えを適切に伝えることができる子どもを育てられないと、世界が抱えるいろいろな問題について一緒になって解決することはできません。現代は子どもも社会に参画する姿勢がより強く求められる時代なのです。

こうした状況に対する試みのひとつとして(財)日本ユニセフ協会はOne Minute Video事業を始めました。One Minute Videoは、1分間の映像でメッセージを伝えるという活動です。これは、子どもたちの協調性、創造力、表現力などを培うことに貢献する教育の方法です。

この活動の第一弾として、2010年6月19日(土)、教職員11名を対象にワークショップを開催しました。講師はOne Minute Videoの制作指導の経験が豊富で、メディア・リテラシーを専門とする東海大学准教授 五嶋正治氏。当協会の1階、2階の展示スペースに展示されている素材などを題材に1分間のビデオ作品を制作するワークショップを行いました。子どもたちに取り組んでもらう前に、教職員の皆さんにこのワークショップの教育的意義や協調性を通して作品を仕上げるといふ達成感を感じてもらおうことがねらいです。

3チームに分かれた参加者1人ひとりに、企画のための絵コンテシートが配付され、各自が企画を練り上げます。その後、お互いのアイデアを提案し、話し合いを通じて原案を決定します。そして、構成や内容に沿った素材をビデオカメラで撮影していきます。

次に、撮影した多くの映像を、順番や各場面の長さを考え、編集していきます。編集の過程では、著作権がかからないバックグランドミュージックをどう使い、音響をどのように効果的に入れるか、字幕を使うのかなどを話し合い、パソコンのソフトを使って編集作業を行いました。

最後に3チームすべての作品が出来上がり、お互いの作品を鑑賞し、感想を述べ合いました。作品を振り返る作業はこの活動の大切な部分です。参加した教職員の一人は「こんな楽しい作業は久しぶりです。子どもに帰ったようなわくわくした1日でした。自分の関わる子どもたちに是非紹介したい」と話しました。

(財)日本ユニセフ協会ではこのOne Minute Videoの制作を子どもや教職員等を対象に推進していきたいと考えています。今後の計画(ワークショップ、作品募集など)につきましてはホームページで紹介していきます。



写真はすべて©日本ユニセフ協会



### One Minute Video



One Minute Videoプロジェクトは、2002年にThe European Cultural Foundation、The One Minutes Foundation、ユニセフ(国連児童基金)の協力でスタートしました。このプロジェクトは、1分間の映像制作を通して、厳しい状況におかれている子どもたちなど、世界中の子どもたちが自分たちのメッセージを世界へ向けて発信し、自己表現力を養い、国籍を超えて興味や意見、夢や希望を分かちあう機会になっています。ユニセフは現在、アフリカやアジア、中東をはじめ多くの国々でワークショップを支援し、世界的にこのプロジェクトを広めるために活動しています。

このワークショップで制作された作品は当協会ホームページ「子どもと先生の広場」(<http://www.unicef.or.jp/kodomo/>)でご紹介しています。是非、ご覧下さい。